

# 私達の日本遺産が存続の危機！？～日本遺産「津和野今昔」の現状とこれから～

島根県立津和野高等学校 1年 阪本孝太郎 松本凜生

## 1.目的

私たちの学校がある津和野町に「津和野今昔～百景図を歩く～」という日本遺産がある。幕末の津和野藩の風景が描かれた絵がおよそ100枚あり、津和野とその周辺地域の昔の姿を知る貴重な資料として、観光に活用されようとしている。しかし昨年(2021年)「津和野今昔」が日本遺産取り消しの危機にあるとの話を聞いた。それを食い止めるために我々は立ち上がった。

## 2.日本遺産と『津和野百景図』

### ①日本遺産について

日本遺産とは、次の3点を目的とする事業である。

1. 地域に点在する文化財の把握とストーリーによるパッケージ化
2. 地域全体としての一体的な整備・活用
3. 国内外への積極的かつ戦略的・効果的な発信

### ②『津和野百景図』について

「津和野今昔～百景図を歩く～」は、『津和野百景図』という画集に描かれた100カ所の名所と、現在のその場所とを比べに行ってみよう！というストーリーが日本遺産に認定された。



(百景図の場所：Googlemapで作成)

津和野町だけでなく、隣接する益田市・吉賀町の旧津和野藩領にも広がっている。

(参考：日本遺産津和野今昔～百景図を歩く公式HP <https://tsuwano100.net/>)

## 3.調査方法

- ①資料調査：「島根県観光動態調査結果」や「RESAS-地域経済分析システム」を使ってデータを分析する。津和野に来る人、津和野への興味を、コロナ前後で比較する。
- ②聞き取り調査：関係施設(日本遺産センターの人)に話を伺う。
- ③アンケート調査：津和野に関わりのある人にアンケート調査を行う。
- ④現地調査：百景図の場所に行って図と現在の様子を比べる。

### 4-①.資料調査 ～データ分析～

◎島根県観光動態調査結果より

津和野訪問者数、年間945,066人(2020年)前年増減(-21.9%)

うち、日本遺産と日本遺産センターへの訪問者数(年別)

- ・日本遺産センター訪問者数、11,515人(2020年)前年増減(-27.3%)
  - ・三本松城跡観光リフト訪問者数、11,423人(2020年)前年増減(-34.3%)
  - ・太鼓谷稲成神社訪問者数、500,352人(2020年)前年増減(-17.2%)
- 津和野の宿泊人数 12,429人(2020年)前年増減(-56.4%)



◎RESASより

- ・津和野観光に来る人は津和野に近い地域からしか来ない。
- ・RESASの観光調査は、webサイトの検索結果の集計なので、日本遺産センターのデータがRESASにないということは事前に調べて来る人はほとんどいないことがわかる。



(RESASのデータをもとに、MANDARA JSで作図)

(参考：RESAS 地域経済分析システムHP <https://resas.go.jp/>)

### 4-②.聞き取り調査

津和野日本遺産センターに聞き取り調査に行き、実際にガイドをしてもらい、質問をした。課題として考えられる点は以下の通り。

- ・コロナの影響もあって、日本遺産のガイドがあまり出ていない。
- ・ホームページやFacebookなどで広めているが、知らない人には情報が全く流れない。
- ・地域の中学生、高校生に知ってもらう機会や仕組み、イベントもない。

### 4-③.アンケート調査

アンケート調査では「日本遺産津和野今昔」の認知度を調査するためアンケートを実施した。

学校の1、2年生と教職員、地域の方々。また、SNSでGoogleフォームを使ってアンケートを行った。



- ・学生より地域の人、SNSのアンケートのほうが全体的に日本遺産を知っている割合が多い。
- ・学生は大人ほど興味のある人が多くはない。

### 4-④.現地調査

「百景図」に描かれたいくつかの場所に実際に行ってみた。感想は次の通り。

- ・歩く結構な距離があり、町外にもあるため一日ではすべて回りきれないが、回りきったときの達成感は大きいだろう。
- ・日本遺産に興味を持つ人は充分楽しめるが、興味がないと楽しむことが難しいので、観光客の減少と関係があると感じた。
- ・ガイドがいれば百景図を読み解きながら観光すると何倍も楽しくなる。

## 5.まとめ

- ・年々日本遺産を始め津和野全体で訪問者数が減少している。
- ・交通機関での観光がほぼなく車で近場の県から来ることがほとんどである。
- ・日本遺産「津和野今昔～百景図を歩く～」の場所が多く、離れすぎている。
- ・子どもたちが楽しめる要素が少ないので若い人が来ない。
- ・全国に知名度がなく宣伝ができていない。

## 6.今後の課題 ～我々がやってみること～

- ・津和野日本遺産センターが2022年度からボランティアガイドを養成する予定なので、これに参加して津和野百景図の高校生ガイド(日本語、英語)をする。
- ・現在、津和野高校では「地域みらい留学」で、首都圏や関西など全国から多くの生徒が来ている。彼らたちに知ってもらえるようにスタンプラリー巡り等のイベントの開催をして、津和野高校生から知人に広めてもらう。
- ・アンケートに協力してくださった大人を巻き込み、知人に広めてもらう。
- ・ガイドやイベント開催を実際に行った成果は、秋季ポスターセッションでぜひ報告したい。